

第52回寝屋川市障害者計画等推進委員会 要旨

日 時 令和5年8月10日 13:30～15:30

場 所 市役所議会棟 4階第一委員会室

出席委員 上田委員 奥村委員 岸谷委員 北野委員長 朽見委員 笹川委員 志田委員
乾委員 土佐委員 栃木委員 富田委員 久澤委員 北條委員 村井委員
山下副委員長（名簿順）

欠席委員 大西委員 中島委員 濱吉委員（名簿順）

手話通訳者の紹介

福祉部次長あいさつ

本日はお忙しいなかご出席いただき感謝する。平素より障害福祉行政の推進に格別なるご理解ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げる。本市ではさらなる障害福祉施策の推進を図るため、第3次障害者長期計画および第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画に基づき障害児・者施策の推進に向けた各種事業に取り組んでいる。また、本年度は第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の策定に加え、第4次障害者長期計画の策定と、2つの計画策定を同時にすすめることになる。委員のみなさまには本委員会で活発なご議論をいただくとともに、今後とも本市の障害福祉施策の推進にご協力を賜るよう、よろしくお願いする。

1 開会あいさつ（北野委員長）

暑くて、温暖化してきているとしみじみ思うが、歳を取って弱ってきていると思うのも本音である。新型コロナウイルス感染症も表向きは収まっていると言われるが、事業者には職員が集団感染したり、利用者も感染したり、大変な状況でご苦労されていると認識している。私は70歳を超えて他市の計画策定の委員長も降り、新しい世代に代わる時期だと思っている。コロナ禍の影響もあって国や障害者団体の関係者とのお付き合いも途絶え、お伝えできる最新情報もないが、もう少しだけお付き合い願おうかと思っているので、よろしくお願いする。

会議成立の報告（委員18名中15人の出席により、会議が成立したことを報告）

委員紹介・事務局紹介

資料の確認

2 案件審議

(1) 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画における令和4年度の実績について

(2) 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画における令和5年度の取り組みについて

（北野委員長）

案件の(1)と(2)について、一括して説明をお願いする。

（事務局 資料1～4に基づき説明）

[補足事項]

- ・事前の資料配付が非常に遅くなったことをお詫びする。
- ・資料1について、手帳所持者数は身体障害者手帳は概ね同数程度で推移し、療育手帳は年々増加、精神障害者保健福祉手帳は令和3年度、4年度と増加している。
- ・資料2、3について、主なサービスは概ね利用が増加傾向にあるが、大きな動きがみられるものは、移動支援事業はコロナ禍の影響か、令和3年度にかけて利用が減少したが、4年度は増加している。また、日中一時支援は3年度に顕著に増加し、4年度も続いている。

- ・資料4は、計画の進捗管理をPDCIサイクルで行う各課の計画推進シートを総括表として集約したものであり、☆印は重点的に取り組む事項である。

(北野委員長)

資料について質問や意見等があれば、自由に話してほしい。

(朽見委員)

資料4に記載された「Osaka あんしん住まい推進協議会」について教えてほしい。グループホームも増えてきているが重度の人の行き場がなく、入所施設も空きがないが、市として住まいの場をどうするかは、次の計画で考えなければいけない課題だと思う。

差別解消に向けた取り組みは、障害福祉課や人事課などの項にいろいろ書かれているが、教育現場での人権研修は書かれておらず、障害がある子どもを守る先生方の研修はどうなっているのか。私たちの団体の会員から、教育現場での合理的配慮や人権の取り組みが薄いのではないかと、という意見が出されたということもお伝えしたい。

重層的支援体制整備事業がいくつかの項目で書かれているが、具体的にどうなのかがわからないので教えてほしい。就労については、雇用されただけなく続けられないと意味がないので、定着の支援についても聞きたい。

地域での防災訓練の実績が書かれているが、障害のある人はどれくらい参加したのか。また、福祉避難所について、対象者を指定する指定福祉避難所もつくれるようになったが、寝屋川市では規定があいまいで、どう考えているのか。避難行動の支援計画と各事業所の事業継続計画をつくらないといけないが、資料には記載されていないので、すすみ具合を教えてほしい。

(北野委員長)

いくつかの大事な質問をしてもらった。住まいについては後の案件で議論したい。就労については就労の現場と暮らしの場の支援の連携も重要なので、そのイメージを教えてほしい。

(事務局)

「Osaka あんしん住まい推進協議会」は、障害や高齢を理由に居住を拒まない民間賃貸住宅などの情報を集約して提供している。また、住宅の確保については庁内の関係課で連携し、情報共有を図っている。

本市では、支援学級、通常学級に在籍するすべての子どもが一定水準で学習できる「ねやがわスタンダード」として掲示物の配列などを研究し、各学校に共有認識として浸透させており、各学校に担当を1名配置して研修を行い、合理的配慮のもとで授業をつくっていくようにすすめている。人権課題については各学校で年度当初に計画を立てて研修をすすめているが、子ども自身が個別最適に学んでいくという国の方針のもとで、教員も自分で研修を選べるよう、総合教育研修センター等と連携して研修を打つとともに、府の教育委員会からの情報を、随時、各学校に案内している。

就労の定着に関するデータは手元にはないが、就労定着支援事業の利用者は、資料3に記載したように令和4年は身体障害者が4人、知的障害者が26人、精神障害者が37人である。また、自立支援協議会の就労支援部会で就労移行や就労定着をテーマとして関係機関が協議を行っており、「エル・ガイダンス」というイベントで、就労移行支援事業を経て一般就労した人の経験談を話していただいたり、就労を希望する人には民間企業の協力による模擬面接会を実施している。あわせて、就労を受け入れる企業への啓発も必要なので、企業間交流会も実施している。また、就労支援部会のサブワーキングとして庁内実習検討会を設置し、情報交換などの連携を行うとともに、市内のすべての就労移行支援事業所に声をかけて、1週間の実習体験の場を毎年設けている。

地域の防災訓練への障害者の参加人数は、本日は担当課が出席していないのでわからない。個別避難計画については関係課による推進会議を今年度に設置し、作業部会に分かれて具体的な内容を詰めるよう、近々の開催を予定している。福祉避難所は、障害者施設13か所、高齢者施設13か所と協定を結んでおり、昨年度、備蓄物品の更新を行うとともに、事業所との意見交

換と課題の聴取を行った。現時点では、直ちに指定福祉避難所を指定することには課題が多いと考えているが、個別避難計画も含めて災害時の課題を共有し、一つひとつ潰していく実効性がある体制づくりの調整を行っているところである。

(北野委員長)

教育の研修は選択制ということだが、「ねやがわスタンダード」についての全体研修はどうしているのか。また、基本的にはユニバーサルデザインの考え方で一般的なしくみをつくるが、それでは対応できない人を個別に支援をするために合理的配慮のしくみをつくったので、スタンダードな研修にプラスして、障害のある子どものそれぞれの違いをふまえた支援を理解する研修も、きちんと考えてもらえればと思う。

私も就労は専門ではないのでよくわからないが、日常生活と就労の連携だけでなく、今後、就労選択支援事業や、一旦、就労した人が、福祉に戻ってまた就労することなどの展開をどうするかも、次期計画に反映できればと思っている。

(笹川委員)

資料4の、広報ねやがわと市のホームページの合理的配慮について、聴こえない人は文章が理解しにくいので、大東市がしているように、読み取れば手話動画が出てくるQRコードを付けてほしい。

ピアカウンセリングについては充実と書かれているが、聴覚障害者のピアカウンセリングは今年の3月終了した。4月からどうするかを尋ねると、わからないという答えだったが、それはなぜか。

聴こえにくい児童に対する支援体制づくりの基本的なやり方を国と大阪府が発表しているが、寝屋川市はどのような支援体制なのかを聞きたい。

地域就労支援センターの障害者支援利用者の障害種別はどうか。また、就労継続支援事業のA型、B型の障害種別の利用者数も載っていない。市で障害者を1人採用したと書かれているが、障害種別がわからない。

障害者差別解消法について積極的に説明していくと書かれているが、いくつかの課に行ってお話をすると、手話を見てもわからないと言われた。手話言語条例ができたのに手話の勉強はしておらず、差別解消法と条例の関係も知らなかったので、市の職員にももっと研修をして伝えてほしい。

本委員会に防災課が出席していないのは残念だが、私が防災士としてハザードマップを読むとあいまいなところがあり、資料4には福祉避難所は13か所と書かれているが、ハザードマップにはいろいろな施設が載っている。また、避難場所と避難所は違うが、ハザードマップではわかりにくい。そのため、ハザードマップとは別に、障害者のために、例えば、福祉避難所の場所がはっきりわかるようなマップをつくってほしい。福祉避難所があることは知っていても、場所がわからない人も多い。避難訓練も、社会福祉協議会が地域ごとに懇談会をして呼びかけているが、障害者はほとんど参加していない。また、福祉避難所には何を置いているのかも聞きたい。私は聴こえないので通訳者が必要だが、来れないこともある。「アイ・ドラゴン4」を置けば自動的にテレビに字幕が出て手話通訳も付くので、そういうものも整備してほしい。これから自然災害が増えていくが、防災関係のネットワークがなくて不安なので、ネットワークづくりをして、いろいろな情報を発信する場をつくってほしい。

資料1は、1ページは障害種別ごとの人数が書かれているが、2ページからは身体障害でまとめられており、障害種別ごとの人数も知りたい。

資料2のコミュニケーション支援事業について、集会の要約筆記等がカウントされていないと書かれているのはどういう意味か。手話はイベントなどのときは登録通訳者に依頼できるが、部会のイベントは認めてもらえないが、要約筆記は認められているのか。

(北野委員長)

広報やホームページのQRコードは、大東市のものを参考にして検討してほしい。

(事務局)

聴覚障害のピアカウンセリングは、3月末に利用者が来られなくなった。民間事業所でのピア活動の支援がすすんできているので、今後、市として実施する予定はない。

(笹川委員)

それでは、計画にピアカウンセリングの充実と書かれていることとあわない。

(事務局)

精神障害のピアカウンセリングは委託相談支援事業所で実施されているが、市も自立支援協議会のイベントに来ていただくなど活動の場は提供しており、事業所と協力してすすめていく。

(笹川委員)

聴覚障害のピアカウンセリングは、これまでどこの事業所でやっていたのか。

(事務局)

委託相談支援事業所に一部を協力していただいていた。

(笹川委員)

また実施してほしい。

(北野委員長)

委員会は要望の場ではないので、団体で話しあいをしてほしい。

(事務局)

通常学級に在籍する聴こえづらい児童・生徒には、保護者や当該児童・生徒と相談し、座席を前にしたり、ロジャーマイクを使用するなどの配慮をしている。また、聴こえづらい児童・生徒にもわかりやすいよう、タブレットにあらかじめ指示を視覚的に出すことでスムーズに学習できるようにしている。しかし、準備できていないため個別に対応している部分もあるので、今後は思いがかなうように対応しているところである。

(笹川委員)

手話も言語であり、聴こえにくい子どもが手話が必要な場合は通訳派遣ができるのか。

(事務局)

教育の場への派遣は行っていないが、懇談会などには個別に派遣している。

また、障害福祉サービス等について、身体の障害種別ごとのデータはない。

(笹川委員)

障害種別ごとのデータをつくってほしい。

(事務局)

防災については障害福祉課でわかる範囲で回答する。福祉避難所はハザードマップにも施設名だけは載せていたと思う。福祉避難所は現在は二次避難所としており、まず一次避難所に行き、必要に応じて二次避難所に移動していただくという運用を想定している。指定福祉避難所にすれば直接行くことができるが、課題が多いと思っている。災害情報や避難情報を障害者や高齢者の方に伝える方法は簡単に答えが出ないので、関係課と協議していく。防災のネットワークは具体的なイメージが想像しにくいのが、関係者のネットワークであれば、障害者団体等の関係団体と情報交換をさせていただきながら相談していきたい。避難所の備蓄物資について、一次避難所には毛布や燃料、食料などを置いていると聞いている。福祉避難所では、それらに加えてインフレーターマットや消毒用品など、数日間過ごすために必要な物品を置いていただいている。

(笹川委員)

それはわかっているが、障害者のための整備をしないと困るので、考えてほしい。例えば、聴こえない人には「アイ・ドラゴン4」を付けたり、視覚障害者は盲導犬を連れてきてもよいのかなど、課題はいろいろあると思う。

(北野委員長)

「アイ・ドラゴン4」は私も細かくわからないので、資料があれば次回に配付してほしい。

(奥村委員)

資料4に、相談支援システムについて、基幹相談支援センターを核として4つの機能を充実すると書かれているが、そのなかの地域移行・地域定着とは具体的にどういうことなのか。

また、就労は、昔は終身雇用だったが今は多岐にわたっており、この資料ではどのように定義しているのか。

(北野委員長)

かなり難しい問いが出された。地域移行・地域定着についても細かなプログラムのことではなく、何を意味しているかということである。就労は幅広い概念で使われており、賃金が要件なのかなど、なかなか悩ましい問題提起だが、計画を立てるうえでみんなですっかり考える必要があるという意味か。

(奥村委員)

計画を立てるうえで、定義をきちんとしてほしいということが基本である。

(北野委員長)

それは委員長に対しても厳しい問いなので、しっかり考えて計画をつくっていく。

(事務局)

地域移行は、長期入院や施設入所をしている人が、ひとり暮らし、家族との暮らし、グループホームなどのいろいろなかたちで地域で暮らせるようにするための支援であり、地域定着は、地域で暮らし続けるための支援だとイメージしていただけるとよいと思う。

(奥村委員)

グループホームは現実に少なく、入れない人がたくさんおり、8050問題にも関わってくるが、グループホームは民間がするもので、公的なものはつukらないということか。

(事務局)

地域生活ではグループホームへのニーズが高まっていると思う。グループホームにはさまざまな形態があるが、一概に公設でなければならないとは考えておらず、民間の事業者で設置していただいてもよい。グループホームの設置には国の補助金があり、市は審査をして国に推薦するとともに、市の補助金も一部入るかたちで支援している。

(奥村委員)

それでは、なぜ、グループホームは増えないのか。

(事務局)

数でみると、寝屋川市は新設も割と多く、設置はすすんでできていると考えている。

(奥村委員)

次回でよいので、どれだけあるのかを示してもらえるか。

(事務局)

数はまた確認する。

(土佐委員)

2年前に本委員会の委員になり、2年前は書面開催、昨年はいきなりの開催でガイドヘルパーの時間が付かなかつたため欠席し、資料を読み込ませてもらった。この委員会の資料は、私が持っている音声読み上げ機には入らず、ガイドヘルパーに何度かに分けて読んでもらった。そのなかで意味がわからないことがあるので教えてほしい。朽見委員も質問されたが重層的支援体制整備事業とは何か。また、オンブズパーソンも日本語で教えてほしい。

委員のみなさんは所属とお名前を言ってから発言されるので確認できるが、事務局は誰が答えているのかがわからない。発言の前に肩書きと名前を言ってもらえると視覚障害者はわかりやすいので、まずお願いしたい。

(北野委員長)

資料を読み取るしくみと発言時の名前についての指摘で、私も抜かっていたが、おっしゃるとおりである。

重層的支援や包括的支援は昨今の流行言葉のようになっており、国の資料で注書きがされていても、他の部分での説明と違っている場合もあり、国もどこまで概念を明確にしているかは私にもよくわからない。重層は、医療、福祉、教育などの異なる層を重ねるというイメージである。包括は、本来は重層のジャンルを超えた全体像を展開するという概念だが、日本では超えていなくても包括的と言っており明確に整理して出てきているわけではないが、そういうイメージの違いはあると専門家は言っている。

(土佐委員)

資料を読んでもらうときにどういう漢字なのかを聞くが、イメージが湧かないので前後の文章もわからなくなってしまう。説明を聞いて、まだはっきりしていないということは、よくわかった。

(北野委員長)

オンブズマンの「マン」が性別を示すのでオンブズパーソンという表現に変わったが、資料には説明はないか。

(事務局)

オンブズパーソンは、福祉や介護のサービスについて第三者に相談し助言してもらうよう、高齢介護室で高齢と障害の分をあわせて委託しているが、活用されたとはあまり聞いていない。

(富田委員)

介護保険のサービスができたときに、第三者が苦情を聞いて調整をする「苦情調整委員」のしくみを自治体でつくることになったので、寝屋川市でも市独自のしくみをつくり、数年後に障害も加えて行われている。障害の相談の窓口は障害福祉課、高齢は高齢介護室で、委託をした第三者に相談を受けていただいている。

(北野委員長)

オンブズマンはスウェーデンで始まり、本来は公的なサービスを民間の第三者がチェックするしくみだったが、今は民間のサービスもチェックするしくみとして活用されている。

(土佐委員)

重層的などのわかりにくい言葉には、簡単な説明を付けてほしい。それが書けないのであれば、使わないようにしてほしい。

(乾委員)

本委員会に初めて参加し、各委員が自分の立場で議論や質問をされているので、よい勉強をさせてもらったが、この場で質問をすると受け止められないこともあるので、前もって出す方が時間が有効に使い、市もきちんと答えられると思う。障害のある人が中心の委員会なので、行政中心ではなく障害者に添った会議のすすめ方をすればよい意見が出て、行政や地域に浸透し、私たちも意識をもって関わっていけるのではないかと感じた。

(北野委員長)

非常に建設的なご意見であり、できるだけ質問は事前に出して他の部局の回答ももらい、委員会では活発に議論することにしたい。

時間が押しているので次の案件にすすみたい。専門部会の「親なき後等の問題検討委員会」が活動されたので、部会長の山下副委員長に報告をお願いしたい。

(3) 専門部会（親なき後等の問題検討委員会）よりアンケート調査結果の報告

(山下副委員長)

昨年に開催された第51回委員会で「親なき後等の問題検討委員会」が設置された。これまで4回の会議を開催し、次期計画の策定に向けた課題の整理について協議し、8050問題、7040問題を視野に入れて市内在住の40～50歳代の障害者に対するアンケートを実施した。

アンケートでは、障害者や家族は障害種別にかかわらず将来についての不安を抱えているという結果が表れた。不安の内容は資料5のように9つのカテゴリーに分けたが、障害種別によ

って不安の内容が違うため、資料6にクロス集計等も記載している。詳細は事務局に説明をお願いする。

(事務局 資料6に基づき説明)

[補足事項]

- ・アンケート調査は3月に実施したが4月以降も返信があったため、5月初旬までに届いたものを有効として集計した。
- ・クロス集計表でアミ掛けをしている部分は、各区分で上位の項目を示している。

(山下課長代理殿)

説明のとおり、アンケート調査では当初に想定した不安についてのニーズが高く、解決するための情報や手段がわからない人が多いことが、あらためて数字で表された。アンケートが親なき後を考えるよいきっかけになったという意見もいただいたが、当事者の不安と家族や支援者の不安は同じではなく、難しい問題だということもわかった。また、検討委員会では、当事者や家族の回答では見えていない、支援者側からの課題もあるのではないかという意見も出た。

(北野委員長)

検討委員会のメンバーの意見は報告のなかに書かれていると思うので、それ以外の委員で、報告された内容について質問や意見があれば出してほしい。

(奥村委員)

資料1に障害者の人数は約15,000人と書かれていたが、アンケートを実施したのは約2割、回答者は全体の約1割なので、アンケートを出す数が少ないのではないか。40～64歳の障害者は4,294人となっており、少なくともそれくらいは出さないといけないのではないか。

(事務局)

今回は親なき後が課題なので、8050問題、7040問題にスポットを当てて調査を行うよう、その年代の手帳所持者を対象として実施した。アンケートは40～50歳代の手帳所持者の方すべてにお送りした。ご指摘の人数は40～64歳であり、60～64歳の方はアンケートの対象に含まなかったため差がある。

(奥村委員)

回収率が非常に悪いのは、アンケートの方法に問題があるのではないか。

(北野委員長)

私もいろいろな自治体で計画の委員長をしているが、4割前後の回収率がふつうである。

(岸谷委員)

私たちの団体も会員の年齢が高くなったなかで運動しており、いちばん心配なのは子どもより先に逝くことである。子どもが50歳代、60歳代になり、この子を置いてどうすればよいかと現実を感じて、親なき後の問題について市にお願いしてきたが、このように前向きに捉えて、即、取り入れてもらった。寝屋川市は先進的に福祉に取り組み、検討委員会を設けてもらったことも、他の市から見ると充実していて感謝している。市も頑張っていることを認めながら、私たちも感じていることを積極的に述べさせてもらいたいと思っている。

(北野委員長)

山下副委員長からも報告があったように、ふだん支援をされている事業者の意見を聴いてはどうかという意見が検討委員会では出されたので、実施方法等は事務局で検討してほしい。

それでは、今後の計画策定方針について説明してほしい。

(4) 計画の策定方針とアンケート調査（ニーズ調査）の実施についての報告

(事務局 資料7に基づき説明)

[補足事項]

- ・計画の位置づけは、これまでの計画と変わりはない。
- ・本年度中の計画策定に向けて、今回を含めて最大5回の委員会開催を予定している。ニーズ

調査は素案を作成しており、準備ができ次第、本委員会のご意見をふまえて速やかに実行するよう、あらためて日程調整をさせていただきます。

- ・スケジュールの表の項目以外に大阪府との法定協議等も予定されており、大変タイトなスケジュールのなかでの計画策定となるが、ご協力をお願いします。

(北野委員長)

計画にかかるアンケート調査を実施するので、次回の委員会はその結果もふまえて開催するよう、10月末～11月のはじめぐらいになると思っていただければと思う。

最後に副委員長からご意見をいただきたい。

3 閉会あいさつ（山下副委員長）

各委員の議論に感謝する。時間的に意見を言えなかった方も多いと思うが、この2～3年はコロナ禍の影響ですすまなかったことが、これから行政全体ですすんでいくと思うので、また意見を出していただければと思う。

(事務局)

本年度は計画策定年度で、非常にタイトなスケジュールでの委員会開催となる見込みである。公私ともにご多忙と存じるが、よろしくをお願いします。

(北野委員長)

進行が不手際で申し訳なかったが、みなさんの思いは聴かせてもらったので、それをふまえて次の委員会を開きたい。

(閉会)